

## 中部圏支部臨床一般部門寄生虫検査アンケート報告 第2報

◎松村 隆弘<sup>1)</sup>、平田 基裕<sup>2)</sup>、金森 隆樹<sup>3)</sup>、林 晃司<sup>4)</sup>、川井 孝太<sup>5)</sup>、長嶋 和子<sup>6)</sup>、井上 佳<sup>7)</sup>、星 雅人<sup>8)</sup>  
学校法人北陸大学<sup>1)</sup>、医療法人 青山病院<sup>2)</sup>、富山県厚生農業協同組合連合会 高岡病院<sup>3)</sup>、岐阜赤十字病院<sup>4)</sup>、磐田市立総合病院<sup>5)</sup>、藤田医科大学病院<sup>6)</sup>、独立行政法人地域医療機能推進機構 四日市羽津医療センター<sup>7)</sup>、藤田医科大学<sup>8)</sup>

【はじめに】本邦の寄生虫検査数の減少は寄生虫感染症の減少に関連しているが、施設の特性により検査依頼数や実施可能な検査方法にも差がみられる。今回、令和3年1月に実施された(社)日本臨床衛生検査技師会中部圏支部臨床一般部門による寄生虫検査アンケートから施設の特性による寄生虫検査の現状について比較したので報告する。

【方法】アンケート回答より得られた「寄生虫検査を実施している病床を有する施設」109施設を対象に、301床以上の施設、感染症指定機関、エイズ拠点病院、ISO15189認定施設の寄生虫検査状況を比較するため Statistical Package for Social Science(SPSS)を用いて統計学的に解析を行った。

【結果】1)寄生虫検査依頼との比較：301床以上の施設でマラリア検査、赤痢アメーバ検査、アカントアメーバ検査依頼が有意に高かった( $p<0.05$ )。感染症指定機関で糞便検査、マラリア検査、赤痢アメーバ検査、トリコモナス検査、条虫検査依頼が有意に高かった( $p<0.05$ )。エイズ拠点病院でマラリア検査、条虫検査依頼が有意に高かった( $p<0.05$ )。2)寄生虫検査方法との比較：感染症指定機関でマラリア抗原検

出キットによる検査、クリプトスポリジウム検査が有意に高かった( $p<0.05$ )。3)過去5年間で検出された寄生虫との比較：301床以上の施設で、裂頭条虫、糞線虫の検出が有意に高かった( $p<0.05$ )。感染症指定機関で裂頭条虫、蟯虫、回虫、糞線虫の検出が有意に高かった( $p<0.05$ )。エイズ拠点病院で裂頭条虫、鞭虫、糞線虫の検出が有意に高かった( $p<0.05$ )。

【考察】今回比較した感染症指定機関やエイズ拠点病院の多くが301床以上の施設が多かったため類似項目で有意差が認められた。しかし、感染症指定機関では検査依頼、検査法、検出された寄生虫の種類も多く、施設の特性が見られた。一方、エイズ拠点病院ではエイズ指標疾患であるクリプトスポリジウム症の検査が実施できない施設もあることが明らかとなった。ISO認定施設では特段有意に高い項目はなかったが、外注する傾向が見られた。検査方法の選択によって検出されない寄生虫も存在するため、検査の指針を示し、誰でも検査可能な標準プロトコルの作成が望まれる。 【連絡先】076-229-1161 内線 5972